

介護保険施設実態調査

調査結果

2025年度
神 戸 市

定員数

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
施設数 (回答数)	79 施設	41 施設	3 施設	123 施設	84 施設
定員数	4,944 人	一般棟 2,608 人 専門棟 841 人 計 3,449 人	398 人	7,346 人	1,640 人 205 ユニット
1 施設あたり平均※	65.9 人	84.1 人	132.6 人	60.7 人	19.8 人 2.5 ユニット

※「1 施設あたり平均」は、定員数の設問に回答があった施設の平均。

■ 施設について

待機者数

	特別養護老人 ホーム	介護老人保健 施設	介護医療院	特定施設・サ ービス付き高 齢者向け住宅	認知症対応型 共同生活介護
施設数 (回答数)	79 施設	41 施設	3 施設	123 施設	84 施設
待機者数 ^{※1} (うち神戸市在住者)	3,278 人 (2,619 人)	55 人 (43 人)	32 人 (30 人)	350 人 (262 人)	171 人 (160 人)
1 施設あたり平均 ^{※2} (うち神戸市在住者)	43.1 人 (34.5 人)	1.4 人 (1.1 人)	10.7 人 (10.0 人)	3.2 人 (2.8 人)	2.1 人 (2.0 人)

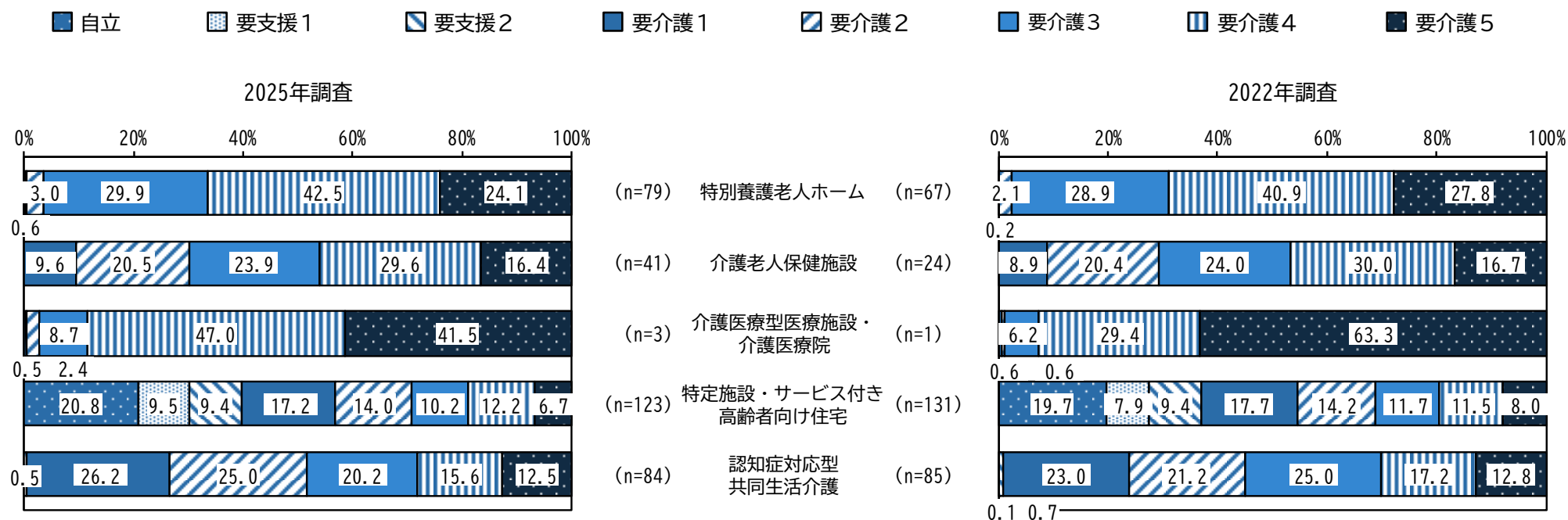
※1：回答施設の待機者数の合計。複数施設への待機者は重複してカウント。

※2：「1 施設あたり平均」は、待機者数の設問に回答があった施設の平均。

■ 入所・入院・入居者について

要介護度

要介護度は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅を除く施設で『要介護3以上』が4割以上となっている

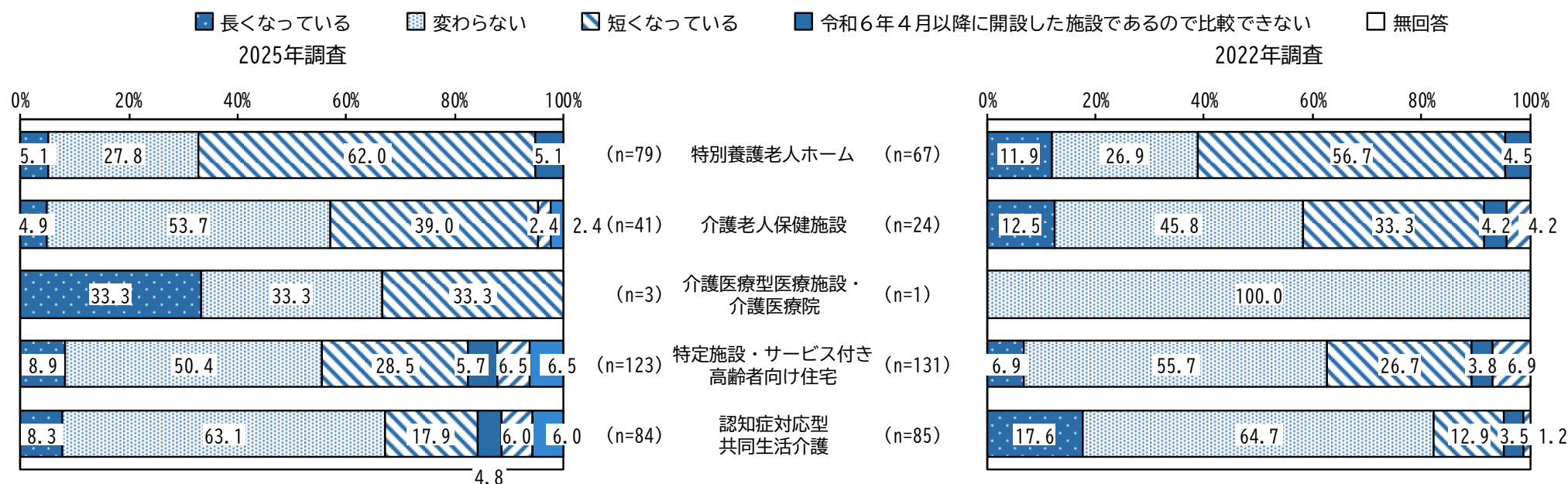


※2025 年調査は介護医療院、2022 年調査は介護療養型医療施設および介護医療院の割合

■ 入退所（院・居）の状況

退所（院・居）者の平均入所期間

退所（院・居）者の平均入所期間は、特別養護老人ホーム、介護医療型医療施設・介護医療院を除く施設で「変わらない」が最も多くなっている。また、特別養護老人ホームでは「短くなっている」が62.0%となっている。



※2025年調査は介護医療院、2022年調査は介護療養型医療施設および介護医療院の割合

長くなっている理由

- ・ 現場の介護力向上や医療連携・発達による健康維持（特養、特定・サ高住、GH）
- ・ 入居時点での健康状態の良さ・要介護度の低さ（特定・サ高住）
- ・ 在宅生活困難者や重度者の増加（介護医療院、老健）
- ・ 施設開設からの年数経過に伴う、初期入居者の継続利用（特養、特定・サ高住、GH）
- ・ 安定した生活とストレスの少ない環境（特定・サ高住、GH）

短くなっている理由

- ・ 入居時の高齢化・重度化・医療ニーズの増加（特養・特定/サ高住・GH・介護医療院）
- ・ 特養（特別養護老人ホーム）への転居（老健・特定/サ高住・GH）
- ・ 在宅復帰支援への注力・ベッド回転率の向上（老健）
- ・ 看取り（終末期）での入居や、急激な体調悪化（特養・特定/サ高住・GH）

医療を必要とする入所（居）者

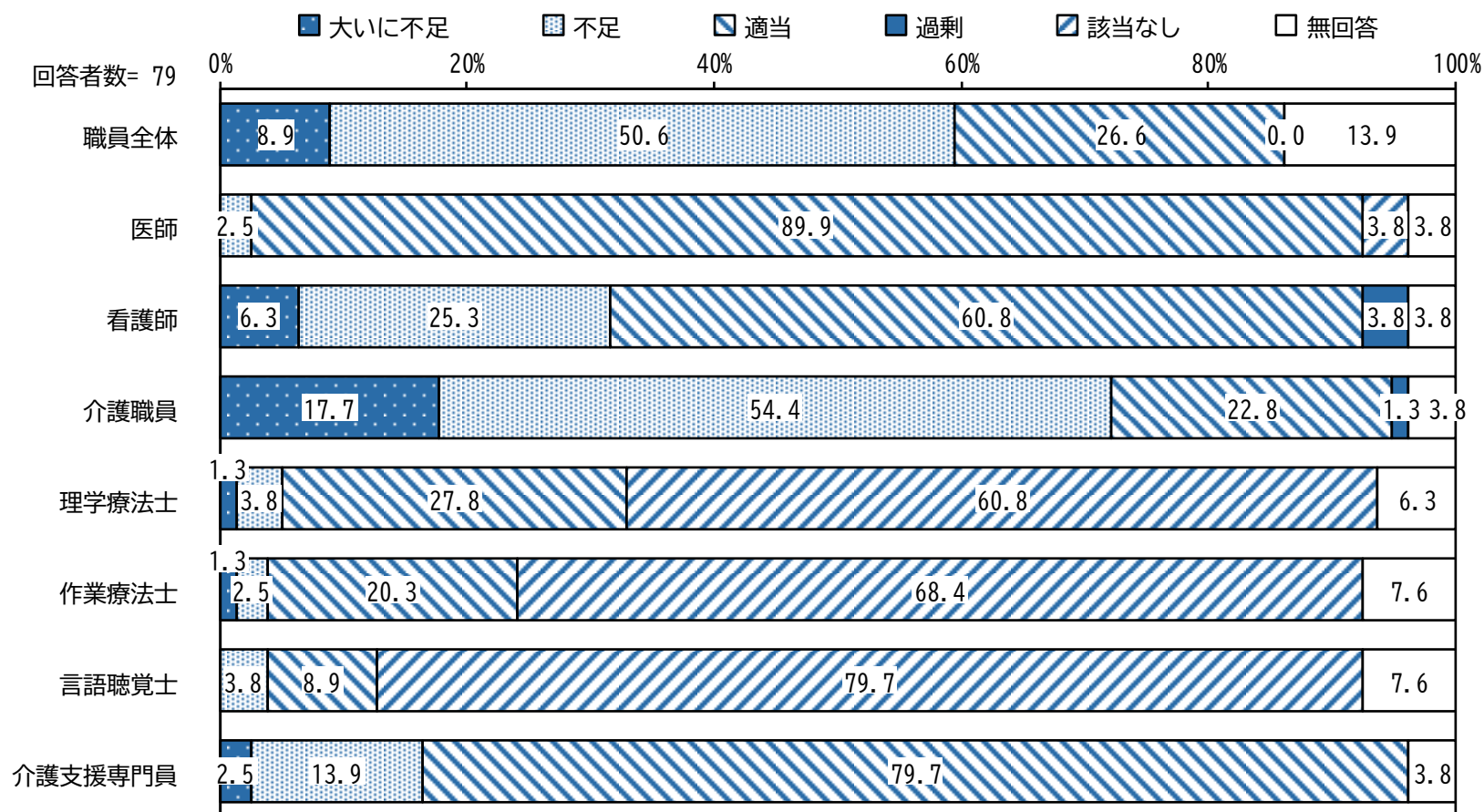
	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	特定施設・サービス付 高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活 介護
褥瘡処理	2.7 人	2.6 人	1.3 人	0.5 人
浣腸・摘便	9.9 人	14.3 人	4.8 人	1.6 人
導尿・膀胱留置カテーテル	3.4 人	4.0 人	2.1 人	0.2 人
膀胱ろう	0.0 人	0.5 人	0.3 人	0.0 人
人工肛門	0.4 人	0.6 人	0.5 人	0.0 人
喀痰吸引	1.6 人	4.9 人	2.1 人	0.1 人
インスリン注射・血糖測定	0.7 人	4.1 人	1.4 人	0.1 人
経管栄養療法	0.4 人	1.7 人	0.5 人	0.0 人
胃ろう	1.5 人	3.7 人	1.4 人	0.0 人
酸素療法	0.9 人	1.2 人	1.4 人	0.1 人
脱水などに対する一時的点滴	0.5 人	2.5 人	1.0 人	0.1 人
透析	0.1 人	0.3 人	1.0 人	0.2 人
ストマケア（パウチの交換を含む）	0.5 人	0.8 人	0.5 人	0.1 人
気管切開	0.0 人	0.1 人	0.2 人	0.0 人
食道ろう	0.0 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
ペースメーカー	1.2 人	1.5 人	1.3 人	0.3 人
その他	0.0 人	0.0 人	0.2 人	0.0 人

※数値はすべて、医療を必要とする入所（居）者の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。

■ 施設の職員について

職員の過不足状況（特別養護老人ホーム）

特別養護老人ホームの職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が72.1%となっている。

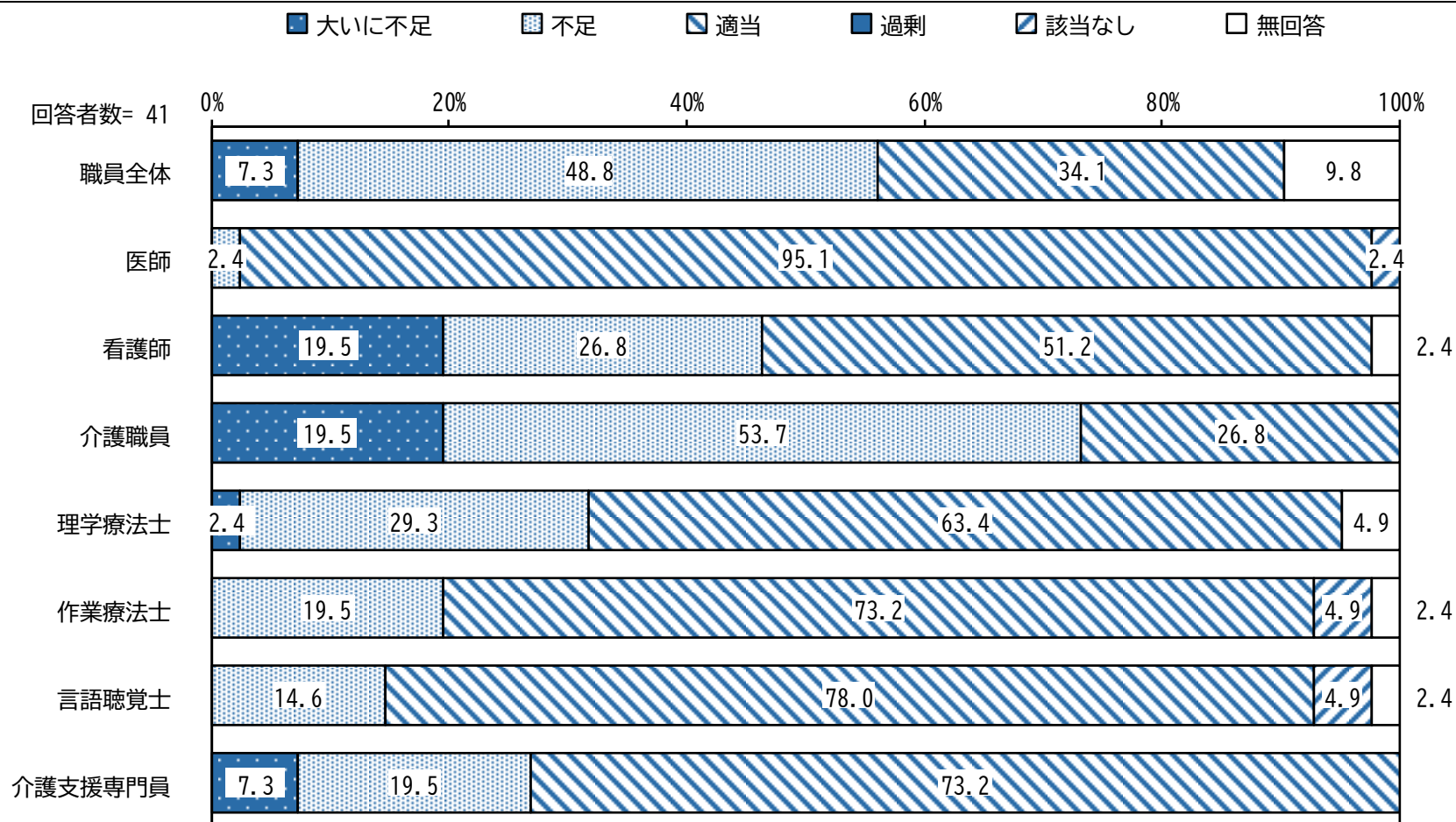


※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

■ 施設の職員について

職員の過不足状況（介護老人保健施設）

介護老人保健施設の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が73.2%となっている。

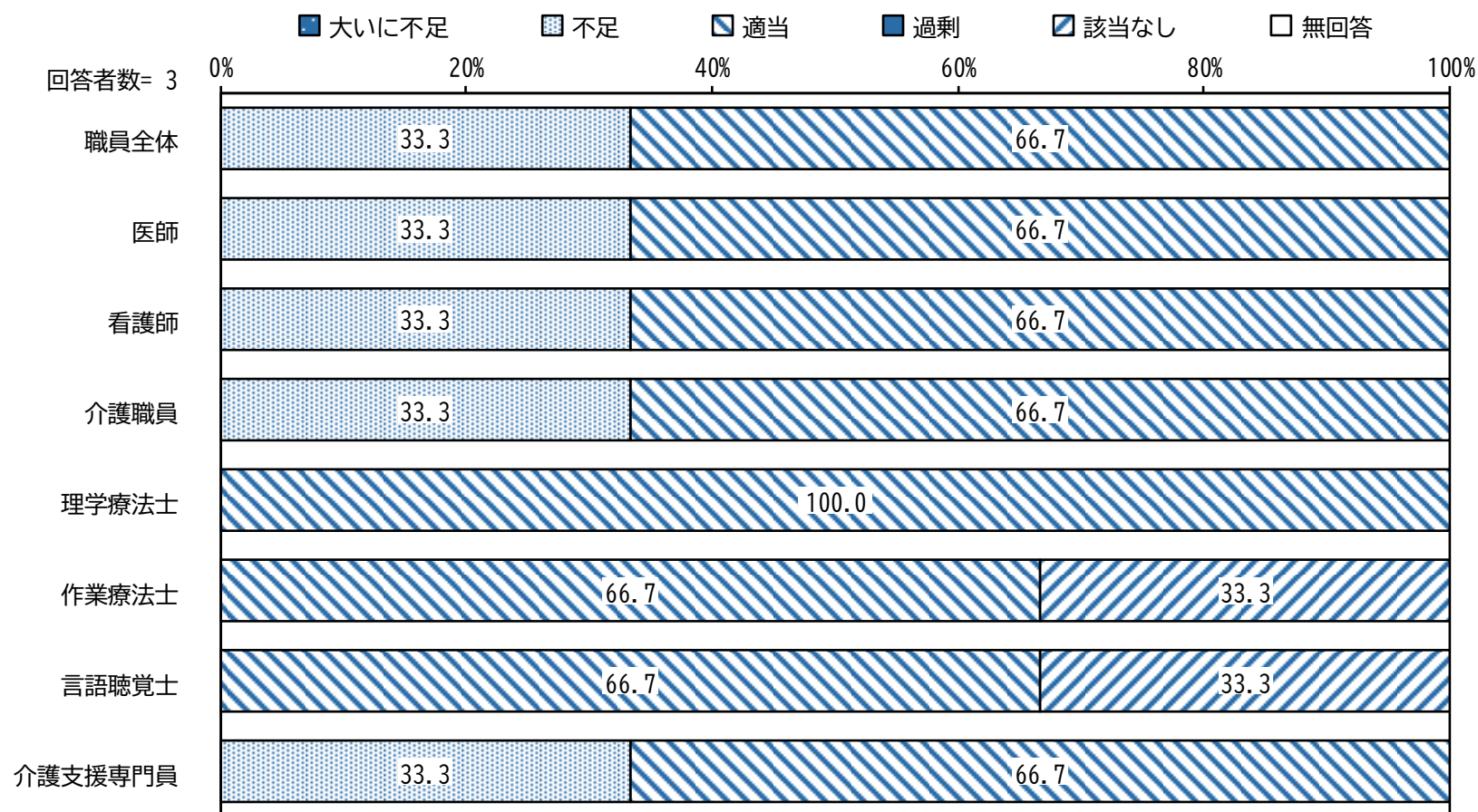


※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

■ 施設の職員について

職員の過不足状況（介護医療院）

介護医療院の職員の過不足状況は、医師、看護師、介護職員、介護支援専門員で「不足」が33.3%となっている。

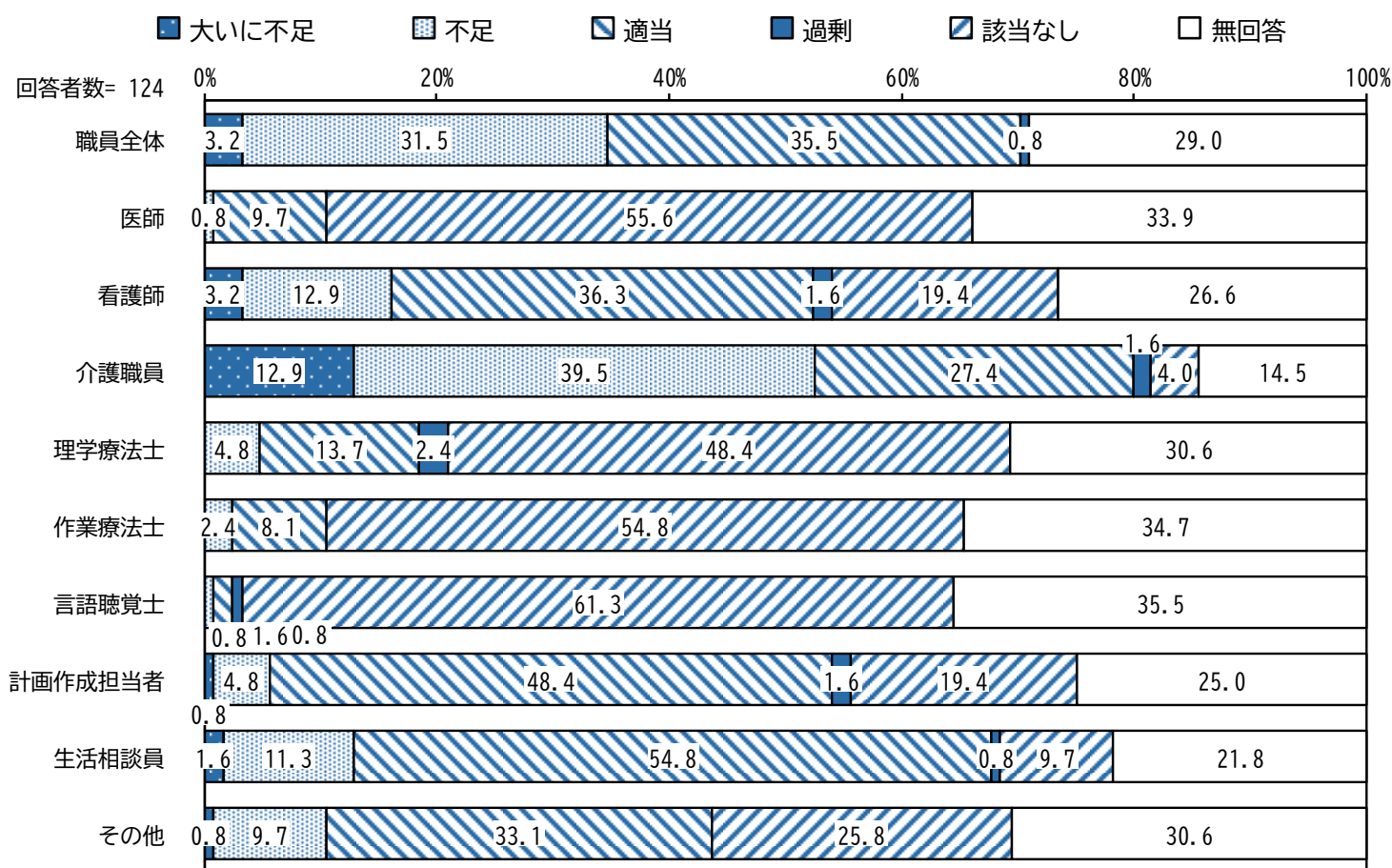


※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

■ 施設の職員について

職員の過不足状況（特定施設・サービス付き高齢者向け住宅）

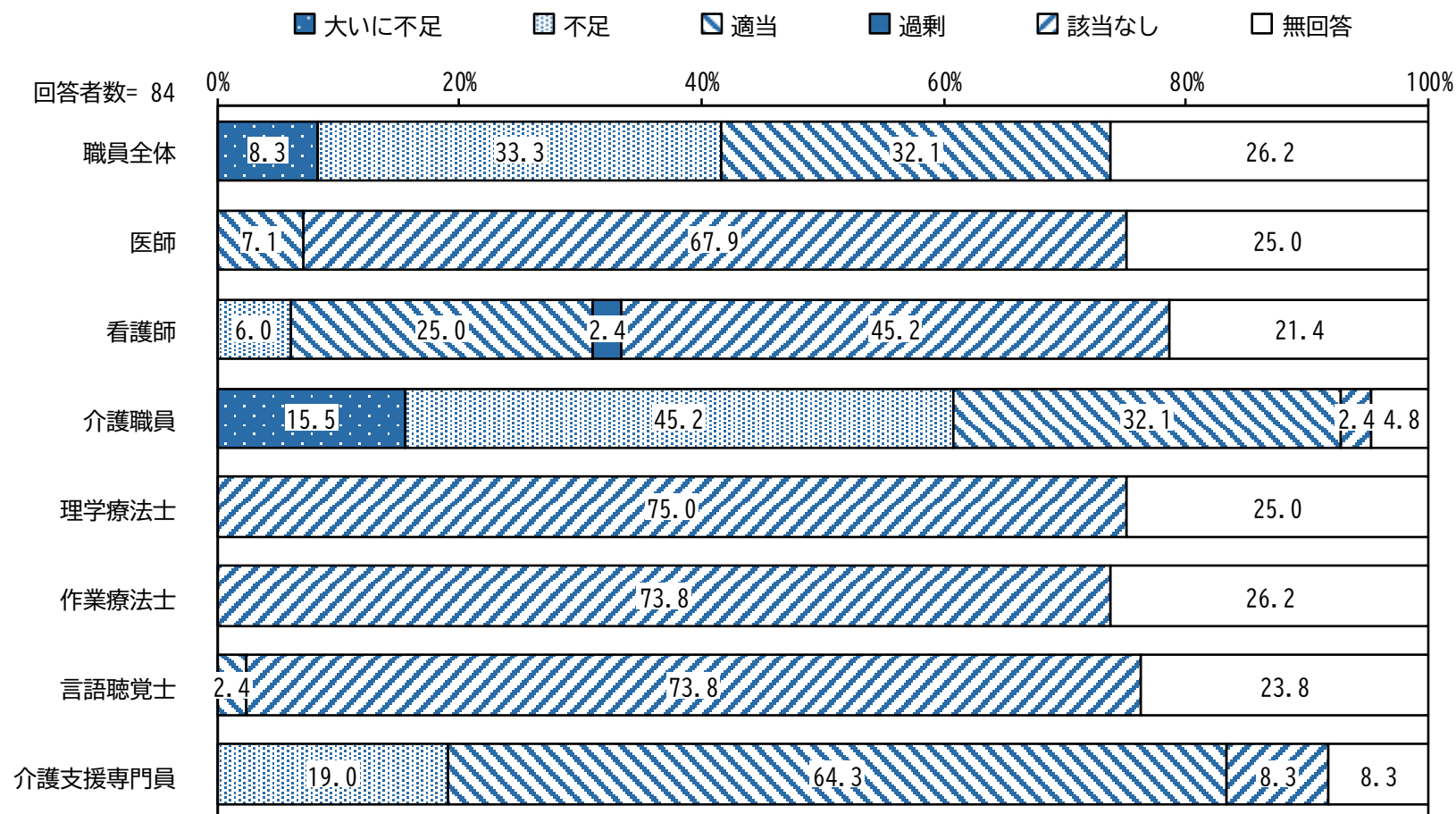
特定施設・サービス付き高齢者向け住宅の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が52.4%となっている。



※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

職員の過不足状況（認知症対応型共同生活介護施設）

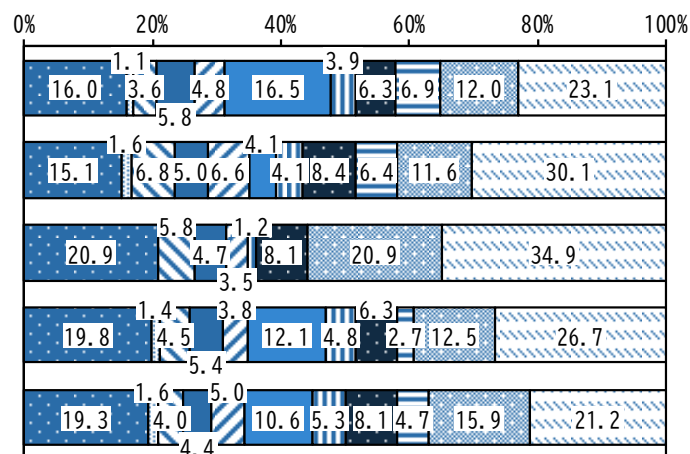
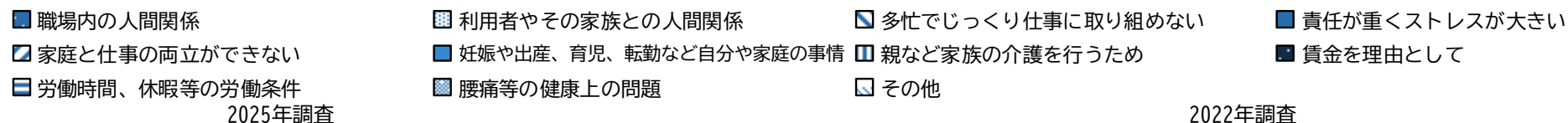
認知症対応型共同生活介護施設の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が60.7%となっている。



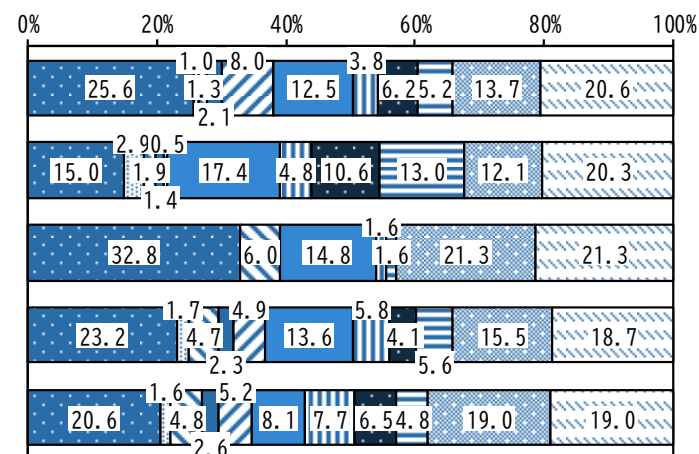
※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

退職した主な理由

退職した主な理由は、介護老人保健施設を除く施設で「職場内の人間関係」の割合が高く、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設で「妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情」、介護老人保健施設、介護医療型医療施設・介護医療院、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護で「職場内の人間関係」が高くなっている



(n=79) 特別養護老人ホーム (n=67)
(n=41) 介護老人保健施設 (n=24)
(n=3) 介護医療型医療施設・介護医療院 (n=1)
(n=123) 特定施設・サービス付き高齢者向け住宅 (n=131)
(n=84) 認知症対応型共同生活介護 (n=85)



※2025 年調査は介護医療院、2022 年調査は介護療養型医療施設および介護医療院の割合

その他の理由

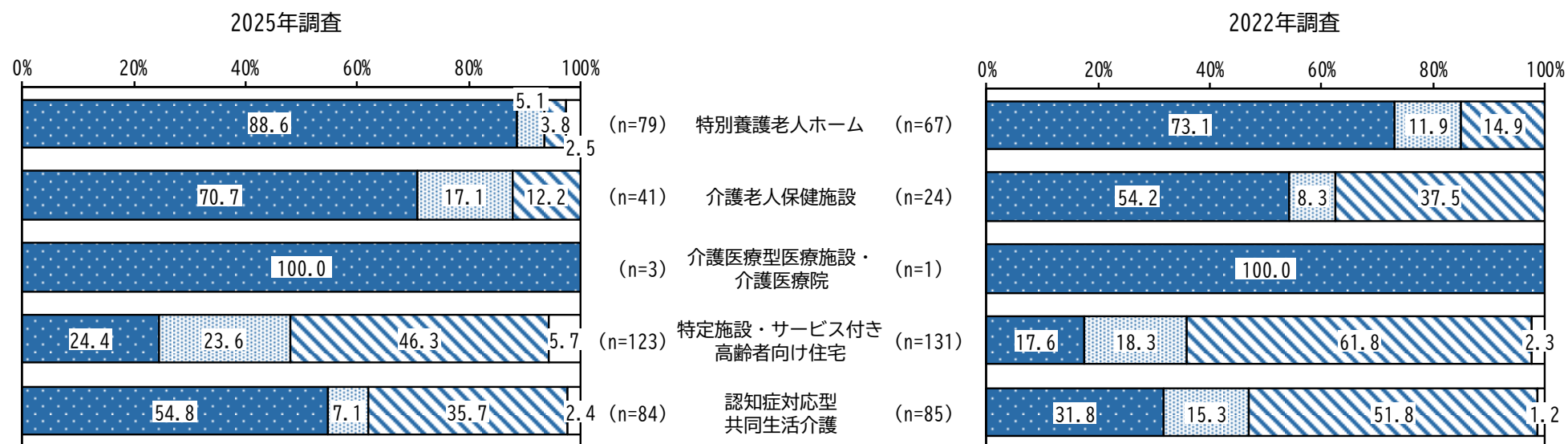
- ・ 定年退職、高齢や体力的な不安
 - ・ 転職、キャリアアップのため
 - ・ 引っ越し、家庭の都合
 - ・ 雇用契約・在留期間の満了
 - ・ 業務内容とのミスマッチ
- 等

■ 外国人介護職員について

外国人介護職員の有無

外国人介護職員の有無は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅で「現在、外国人介護職員がいる」が24.4%と他に比べて低くなっている。

- 現在、外国人介護職員がいる
- 現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）
- 現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない
- 無回答



※2025年調査は介護医療院、2022年調査は介護療養型医療施設および介護医療院の割合

■ 外国人介護職員について

外国人介護職員の在留資格

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
特定技能1号	4.2人	3.2人	2.3人	3.4人	1.6人
技能実習（介護職種）	0.4人	1.0人	0.7人	2.7人	0.8人
EPA（経済連携協定）	0.3人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
在留資格「介護」	1.2人	1.1人	0.0人	0.4人	0.3人
留学（介護福祉士養成施設）	0.3人	0.7人	0.0人	0.0人	0.1人
その他	0.3人	0.5人	2.0人	0.4人	0.0人

その他
・日本人の配偶者 ・永住者 ・家族滞在 ・定住者 ・技人国
等

※数値はすべて、外国人介護職員の在留資格の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。

■ 外国人介護職員について

外国人介護職員の国籍

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
ベトナム	1.5 人	2.3 人	2.0 人	1.3 人	0.5 人
インドネシア	2.4 人	1.4 人	0.0 人	1.8 人	0.6 人
フィリピン	0.6 人	0.1 人	1.0 人	0.9 人	0.2 人
ミャンマー	1.3 人	1.0 人	1.7 人	2.8 人	1.0 人
ネパール	0.4 人	1.1 人	0.0 人	0.7 人	0.4 人
モンゴル	0.0 人	0.2 人	0.0 人	0.0 人	0.0 人
中国	0.1 人	0.3 人	0.0 人	0.6 人	0.0 人
その他	0.4 人	1.2 人	0.3 人	0.4 人	0.1 人

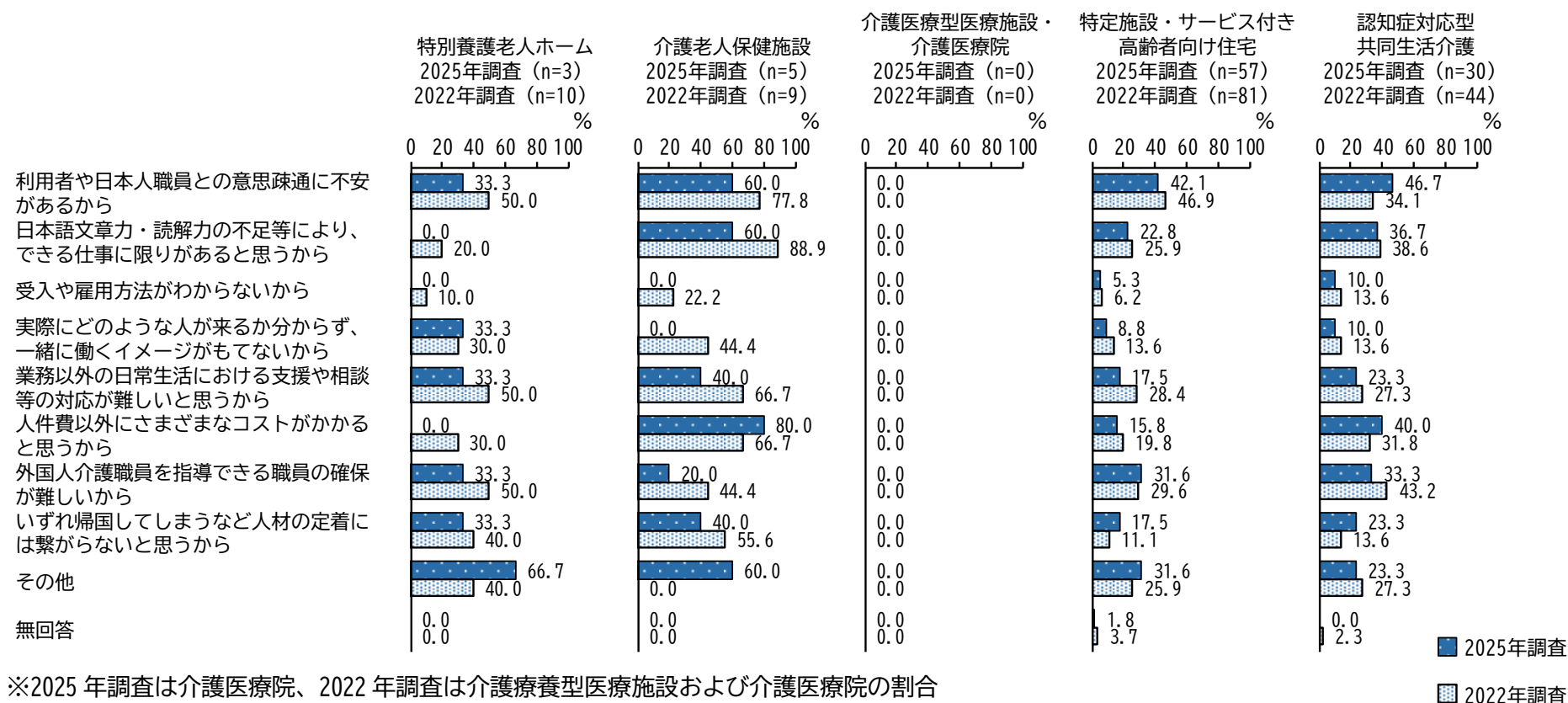
その他

・スリランカ ・インド ・タイ
 ・韓国 ・タンザニア ・台湾
 ・バングラデシュ ・ラオス 等

※数値はすべて、外国人介護職員の国籍の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。

外国人介護職員の受入を考えていない理由

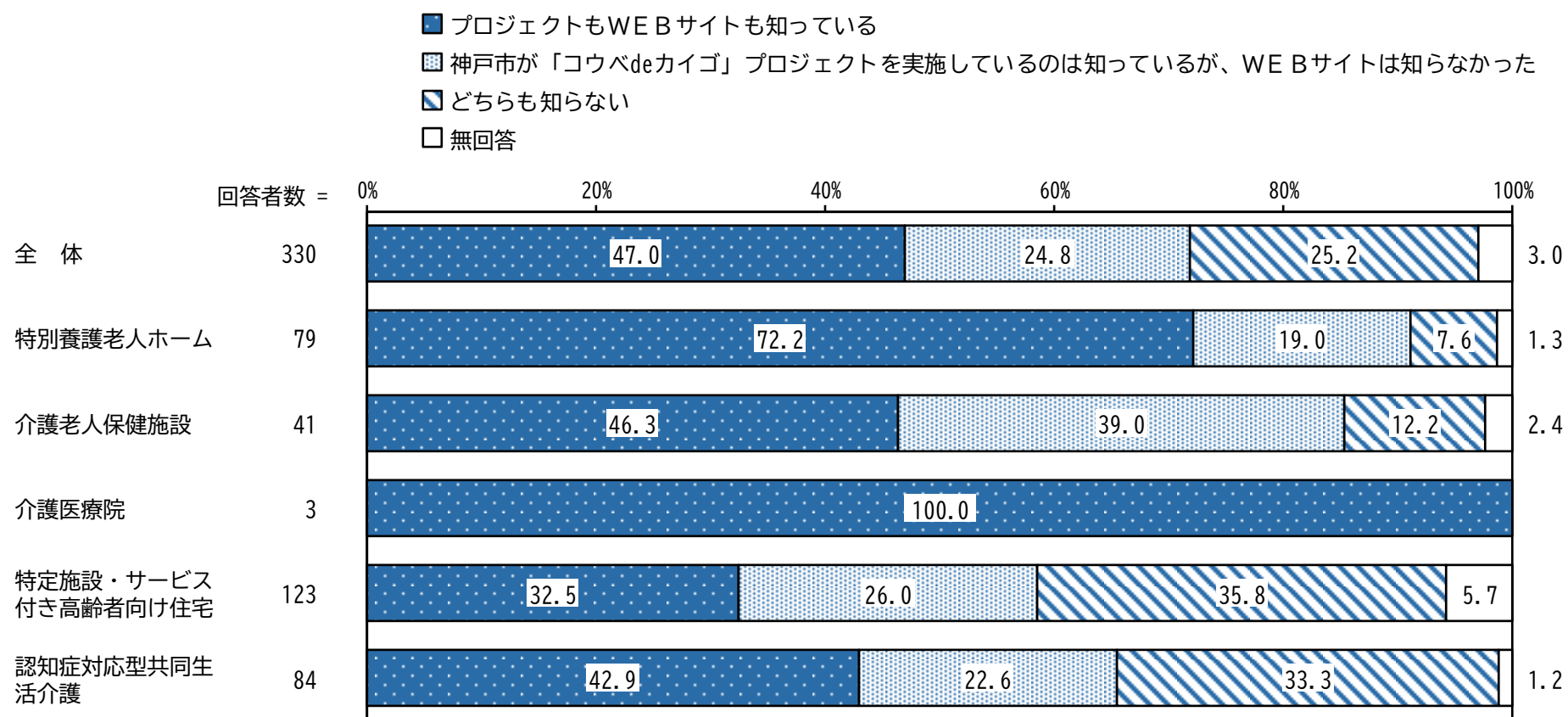
外国人介護職員の受入を考えていない理由は、「利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから」「外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから」が多くなっている。



■ 人材の確保・育成について

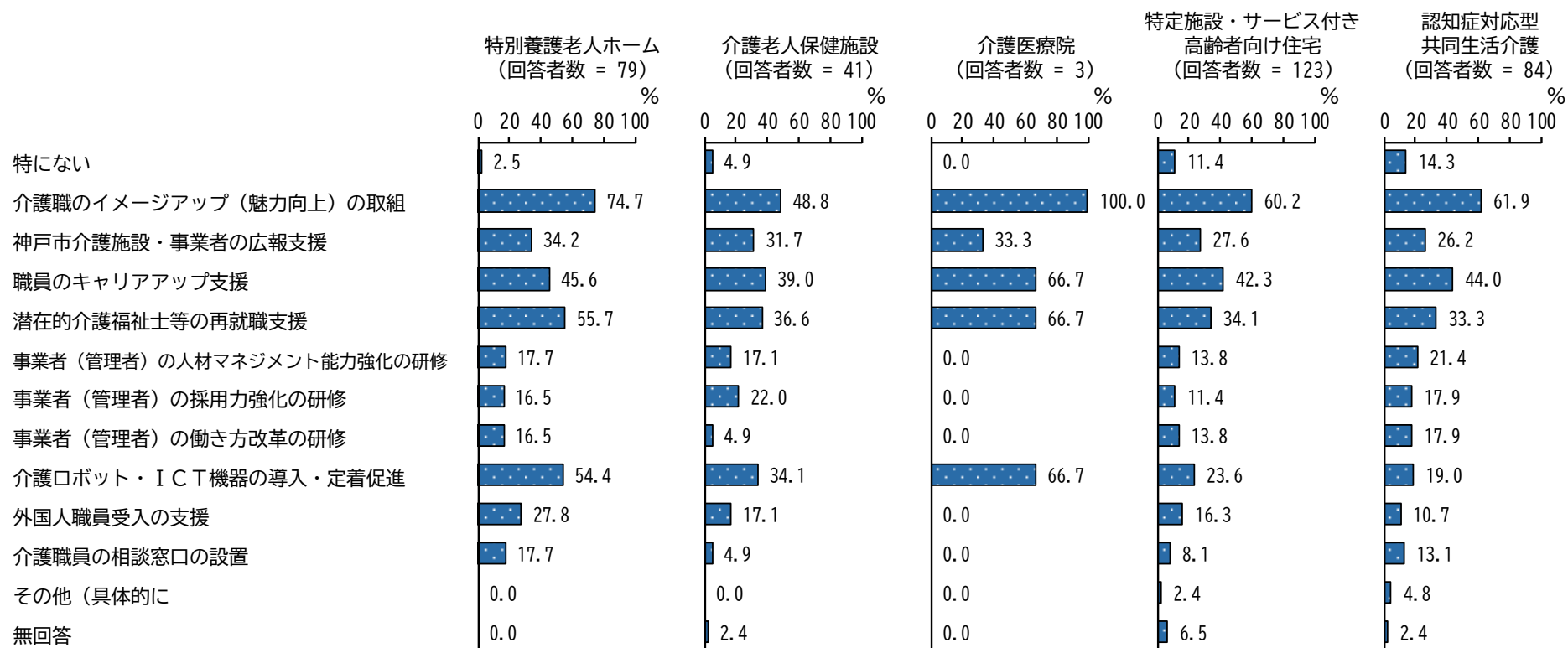
「コウベ de カイゴ」の認知度

「コウベ de カイゴ」の認知度は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅で「(プロジェクトも Web サイトも) どちらも知らない」が 35.8%となっている。



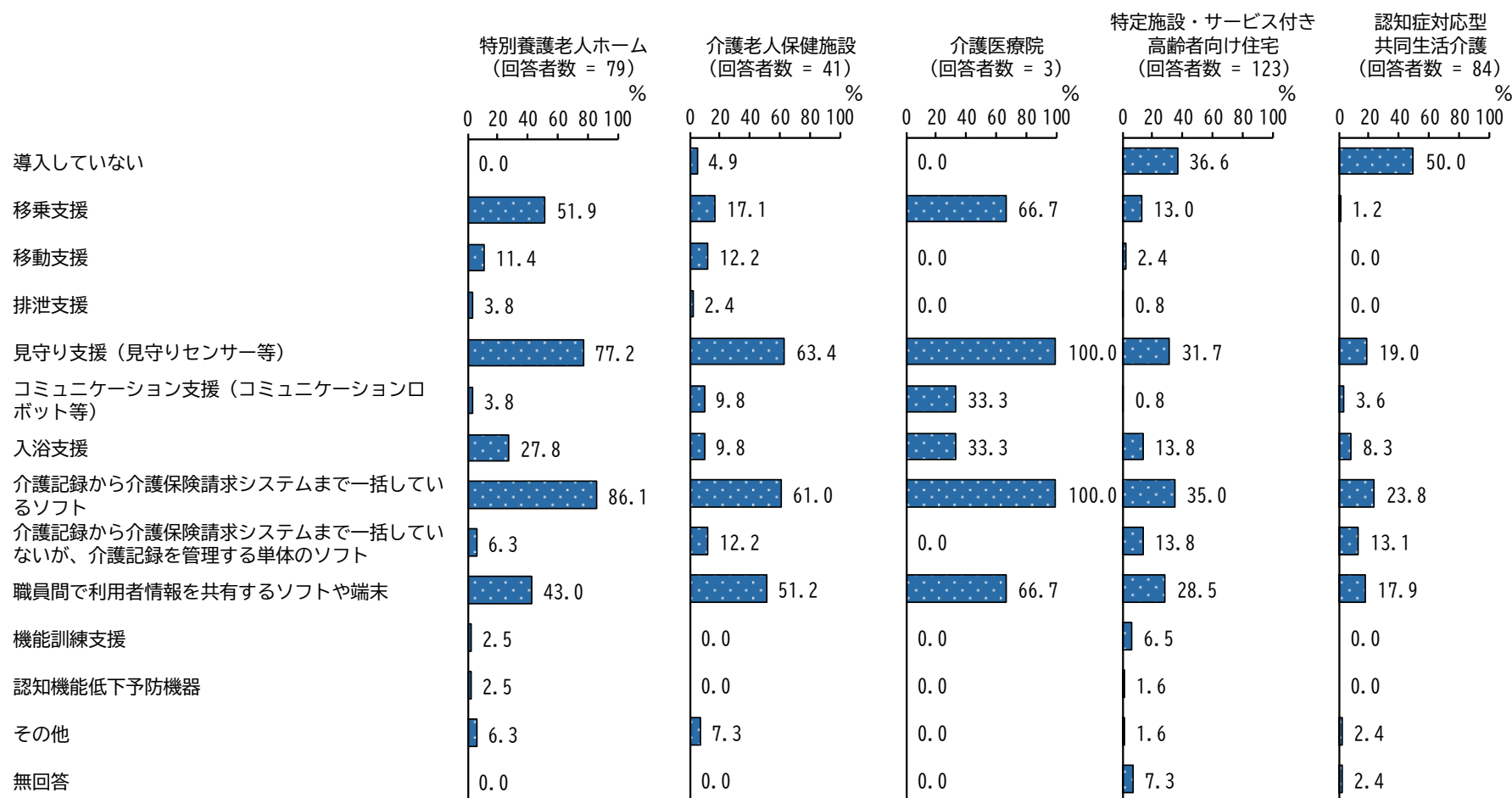
介護人材の確保・育成について、行政に期待すること

介護人材の確保・育成について、行政に期待することは、「介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組」がいずれの施設でも最も高くなっている。



導入している介護ロボット・ICT機器

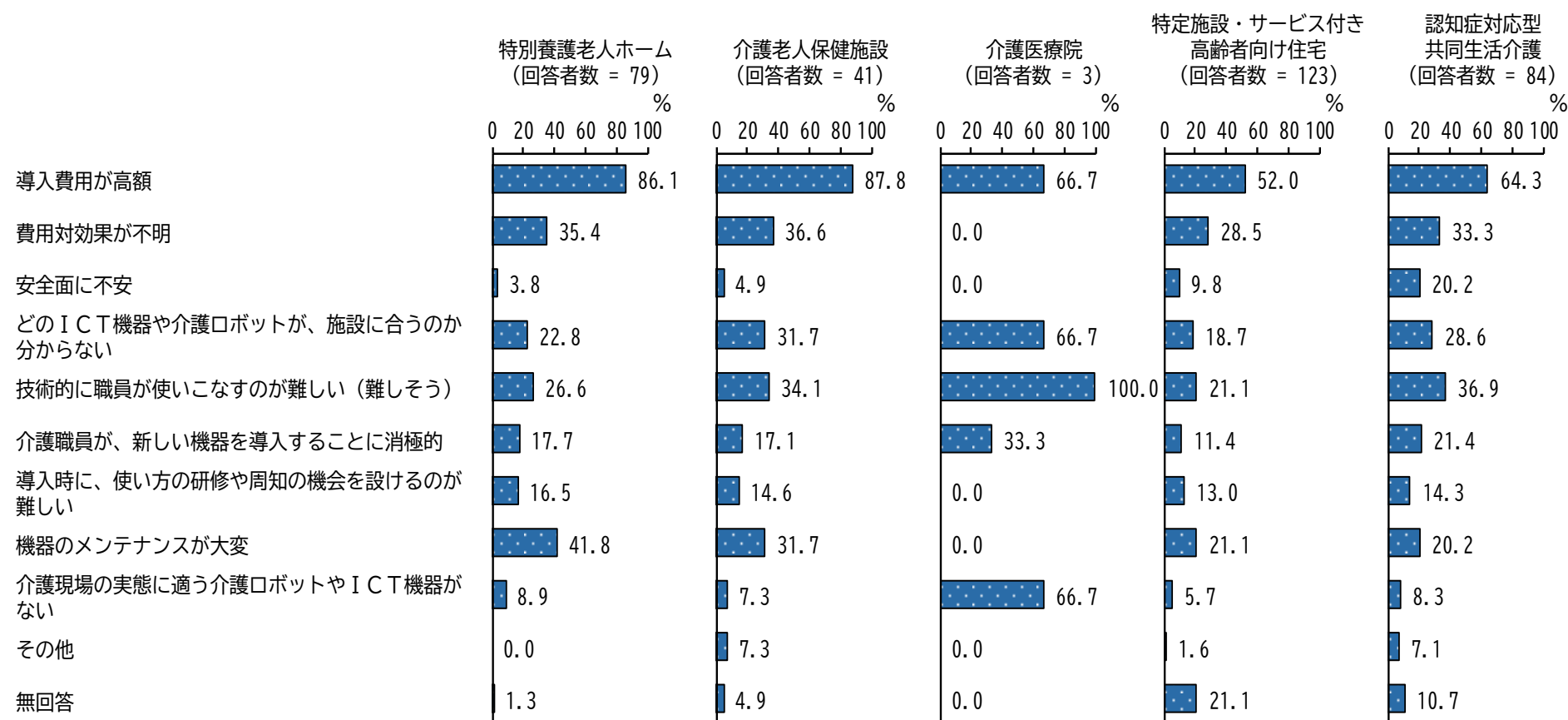
導入している介護ロボット・ICT機器は、認知症対応型共同生活介護で「導入していない」、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院で「移乗支援」「見守り支援（見守りセンサー等）」「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」「職員間で利用者情報を共有するソフトや端末」が多くなっている。



■ その他

導入して感じた課題や導入していない理由

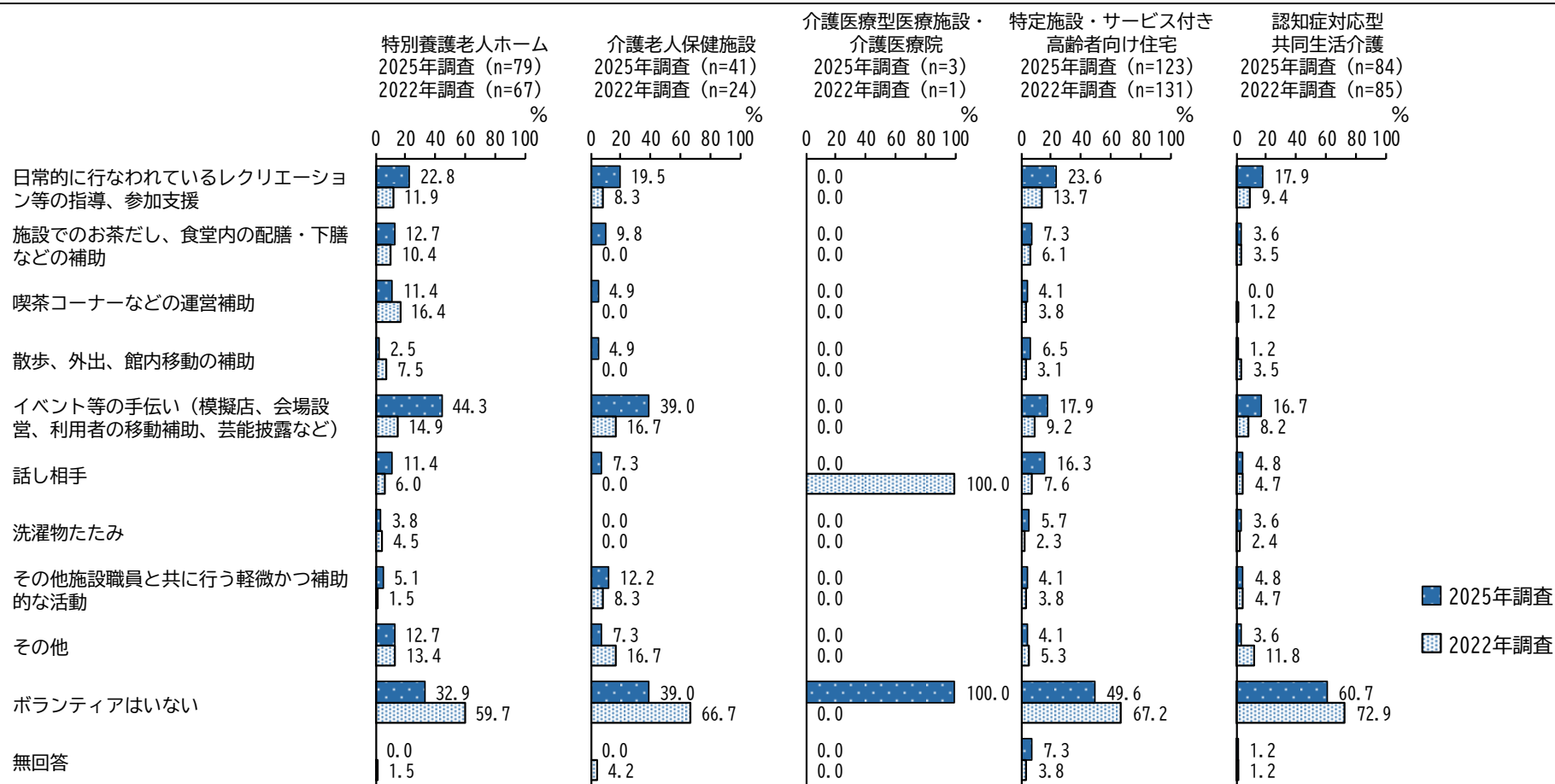
介護ロボット・ICT機器を導入して感じた課題や導入していない理由は、介護医療院で「技術的に職員が使いこなすのが難しい（難しそう）」、それ以外の施設で「導入費用が高額」が多くなっている。



■ ボランティア活動について

行っているボランティア活動

ボランティア活動について、特別養護老人ホーム以外の施設で「ボランティアはいない」が多くなっている。ボランティアの内容は、「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導・参加支援」「イベント等の手伝い」などが多くなっている。



※2025年調査は介護医療院、2022年調査は介護療養型医療施設および介護医療院の割合